道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル 創る

Vol.27
2024.3
その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

CONTENTS

特 集

01 ジオパークを活かした地域づくり
～国宝指定と白滝ジオパークの取組～
洞爺湖有珠山ジオパーク/アポイ岳ジオパーク/三笠ジオパーク/とかち鹿追ジオパーク
十勝岳ジオパーク/大雪山カムイミンタラジオパーク構想

05 地域が動く・プロジェクト最前線
～業務委託型短時間ワークシェアリング事業～
■東川町　官民連携で取り組む「しごとコンビニ」

07 ミニ特集
「地域の未来を考える」～道内の高校生・大学生にご意見を伺いました～
江差高校/岩見沢農業高校/釧路公立大学

08 知事が地域訪問する機会に地域で活躍されている方をお訪ねし、その様子を紹介
「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～
■石狩編　ゆめちからテラス

09 地域に新たな風を吹き込む
地域おこし協力隊へのインタビュー
■ 弟子屈町地域おこし協力隊　川上椋輔さん
■ 上士幌町地域おこし協力隊　伊藤あかりさん

特集

ジオパークを活かした地域づくり

～国宝指定と白滝ジオパークの取組～

ジオパークとは

ジオパークは「大地の公園」を意味しており、科学的に重要で貴重な価値を持つ地形や地質を保全するとともに、持続可能な発展を推進する地域のことです。大地（ジオ）の上に広がる生態系（エコ）の中で人々の暮らし（ヒト）が営まれていることから、「ジオ・エコ・ヒト」の3つの要素をつなぐ地域資源の総称でもあります。そのため、ジオパークでは大地が育んだ地域の文化や風習、グルメを体感するなど、地球を学び、丸ごと楽しむことができます。

ジオパークには、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が認定する「ユネスコ世界ジオパーク」と日本国内の独自制度である「日本ジオパーク」があります。道内には日本ジオパークが6か所、ジオパークの認定を目指す地域が1か所あり（令和6年2月現在）、そのうち、洞爺湖有珠山ジオパーク、アポイ岳ジオパークの2地域は、「ユネスコ世界ジオパーク」にも認定されています。

ジオパークは、その保護に取り組むことだけではなく、多くの方々が大地の成り立ちについて知識を深め、自然と人間の共生を深く理解する場所として活用を図ることが重要であり、歴史や地質など各地域の特色を活かしながら、貴重な地域資源として、ツーリズムなど観光振興や地域振興に繋がることが期待されるとともに、環境教育のほか、火山災害などの防災教育における教材として活用されることが求められています。

ジオパークを活かした地域づくり支援

道では、ジオパークを活かした地域づくりを推進するため、平成29年度から、道内ジオパーク関係団体による「北海道ジオパークネットワーク連絡会議」を立ち上げ、ジオパーク間の有機的な連携を図り、道内ジオパークを本道の活性化のために有効に活用することを目的として「北海道ジオパーク活動プラン」を策定しました。プランでは、道内ジオパークの連携強化、道内ジオパークの取組促進、道内ジオパークの発信力強化を基本方針として施策を展開しています。

こうしたプランに基づき、道では、道内各地のジオパークが集まるPRイベントの開催など、ジオパークを知らない方々への認知度向上、ジオパーク関係団体との情報交換や勉強会を通して、効果的な取組の検討や情報発信の強化などに取り組んでいます。

今後の展開

令和2年に開催された「第23回北海道・北東北知事サミット」にて、北海道・青森県・秋田県・岩手県の4道県は、北海道・北東北のジオパークの一体的なPRによる認知度向上と、地域間での情報交換・情報共有を図ることを決めるなど、ジオパークによる広域的な連携も進められており、地域の歴史・文化・自然を活用した新しい人の流れの創出が期待されます。

また、遠軽町の日本最大の黒曜石の産地である「白滝ジオパーク」では、「北海道白滝遺跡群出土品」1965点が、令和5年6月に国宝に指定され、大きな注目を集めるなど、今後の地域活性化への起爆剤となることが期待されています。

今回、国宝指定により新たな地域活性化に取り組む遠軽町を取材しました。

▲VR動画でバーチャル登山体験
道が制作した、アポイ岳ジオパークが舞台のVR動画。
小学生でも楽しめる内容となっている。解説は北大生が担当。

【北海道のジオパーク】

道内の魅力的なジオパーク（構想）の地域活性の取組

洞爺湖有珠山ジオパーク

▲昭和新山と洞爺湖

▲減災教育ガイドツアー

約11万年前の巨大噴火によってできたカルデラ湖「洞爺湖」と、約2万年前に誕生した活火山「有珠山」を中心とした雄大な景色が見どころです。

地域独自の資格「火山マイスター」による減災教育ガイドツアーの実施や、教育旅行向けの「野外学習テキスト」を作成し、ウェブサイトに掲載するなど、減災教育への活用に取り組んでいます。

アポイ岳ジオパーク

▲アポイ岳と様似海岸

▲体験プログラム

地球内部のマントルに由来するかんらん岩が地表に現れてできた、世界的にも珍しいアポイ岳は、固有の高山植物が多く生育する「花の山」としても知られ、全国各地から登山客が訪れます。

地元中学生が高山植物の苗を育ててアポイ岳に戻す「自然環境の再生」を試みる環境教育や、認定ガイドの案内による多様なツアーや体験プログラムの実施に取り組んでいます。

三笠ジオパーク

▲三笠市立博物館

▲ジオツアー

1億年前の太古の生命と進化の歴史、石炭発見により栄えた炭鉱まちの文化を感じることができるジオパークです。これらのストーリーを活用し、見るだけではなく、五感を通じて楽しむ体験型ツアーを実施しています。

また、食を通じた地域づくりも進めており、ジオパークに関連した商品を「ジオパーク認定商品」に認定するなど、産官学連携の取組も実施しています。

とかち鹿追ジオパーク

▲風穴(ふうけつ)

▲しかりべつ湖コタン

全国で唯一「凍（しば）れ」をテーマにしたジオパークで、凍れが作り出した、夏でも冷たい風が吹く「風穴」やそこに暮らす生き物たち、寒冷地ならではの生活の知恵や産業に触れることで、知的好奇心をくすぐる旅を楽しめます。冬になると完全結氷した然別湖の上で期間限定のイベント「しかりべつ湖コタン」が開催され、国内外から多くの観光客が訪れるなど誘客につなげています。

十勝岳ジオパーク

▲波状丘陵地帯

▲ジオパーク学習

十勝岳連峰の主峰、活火山「十勝岳」の雄大さ、その麓に広がる波状丘陵、美しい景色が魅力的な地域です。

火山と人々の営みによって生み出された、風景、温泉、農作物を楽しみ、景観やその成り立ちを学ぶことができるツアーを計画、試行しているほか、ジオパーク活動を普及するため、学校教育・生涯学習にも力を入れています。

大雪山カムイミンタラジオパーク構想

▲神居古潭(かむいこたん)

▲フィールドワーク

現在も活動を続ける「大雪火山群」、大雪山系を源とする河川が流れる「上川盆地」、そして約1億年前に地下深くでつくられた変成岩類を石狩川が削ってできた「神居古潭峡谷」の3つのエリアを楽しむことができます。

雄大な大雪山の山々や温泉、肥沃な土壌で作られる米等の特産品の他、地域の随所にアイヌの人々にまつわる歴史や物語があります。

国宝指定を契機に白滝ジオパークを核とした交流人口拡大へ

国宝指定と白滝ジオパーク

遠軽町の白滝ジオパークは、日本最大級の質・埋蔵量を誇る黒曜石が見どころの一つで、この黒曜石から、過去の地球の活動を知ることができる場所となっています。この黒曜石を生み出した火山活動と、黒曜石を道具として用いた旧石器時代の人々について学び・体感することで、大地と人のつながりを感じることができます。この白滝から出土した「北海道白滝遺跡群出土品」1965点が、令和5年6月に国宝に指定されました。

遠軽町では、この指定による効果を地域全体に波及させるため、白滝ジオパークを拠点とした地域活性化の取組を進めています。

▲白滝ジオパーク交流センター(遠軽町白滝総合支所１階内)
どのように黒曜石ができたのかを学べる施設。

認知度向上に向けた情報発信

町では、黒曜石や白滝ジオパークの認知度向上に向けて、道内外のイベントへの出展や、黒曜石のアクセサリー作り体験を通じたジオパークの魅力のPRなど、町や白滝ジオパークに人を呼び込むための取組を行っています。また、白滝ジオパークの特設サイトを構築することで、ジオパークの特色や魅力を発信し、興味を持った方が実際に町に訪れるきっかけとなるような環境整備に努めています。

▲黒曜石アクセサリー作り体験(札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ））
オホーツク総合振興局主催のオホーツクフェアでは、多くの方がアクセサリー作りを楽しんでいました。

豊富な体験プログラム

白滝ジオパークでは白滝ジオパーク交流センターを拠点に、ジオパークを体感できる「ジオツアー」を開催し、「北海道白滝遺跡群出土品」や白滝ジオパークを学ぶ取組を行っています。

個人旅行以外でも、小中学生などの教育旅行などの活用のため、学習教材やデジタル教材なども取り揃え、地域内外の子どもたちにこのジオパークの価値を体感できるメニューを用意しています。また、遠軽町埋蔵文化財センターでは、黒曜石を使った石器づくりや滑石を使って作る勾玉づくりなど、子どもから大人まで楽しめる体験プログラムも実施しています。

こうした豊富な体験プログラムにより、国宝や黒曜石について、体験しながら学ぶことができ、来訪者の知的好奇心を満足させるメニューが揃えられています。

ジオパークを拠点とした町内周遊

さらに、白滝ジオパークを拠点とした町内周遊の促進や観光客の滞留時間の延長に向け、官民連携による町内周遊ガイドやPR動画の作成にも取り組むほか、道の駅「遠軽　森のオホーツク」をはじめ、町内の飲食店や土産店で、黒曜石をモチーフにした商品を開発するなど、町が一丸となって交流人口拡大に取り組んでいます。

取組の成果と今後の展開

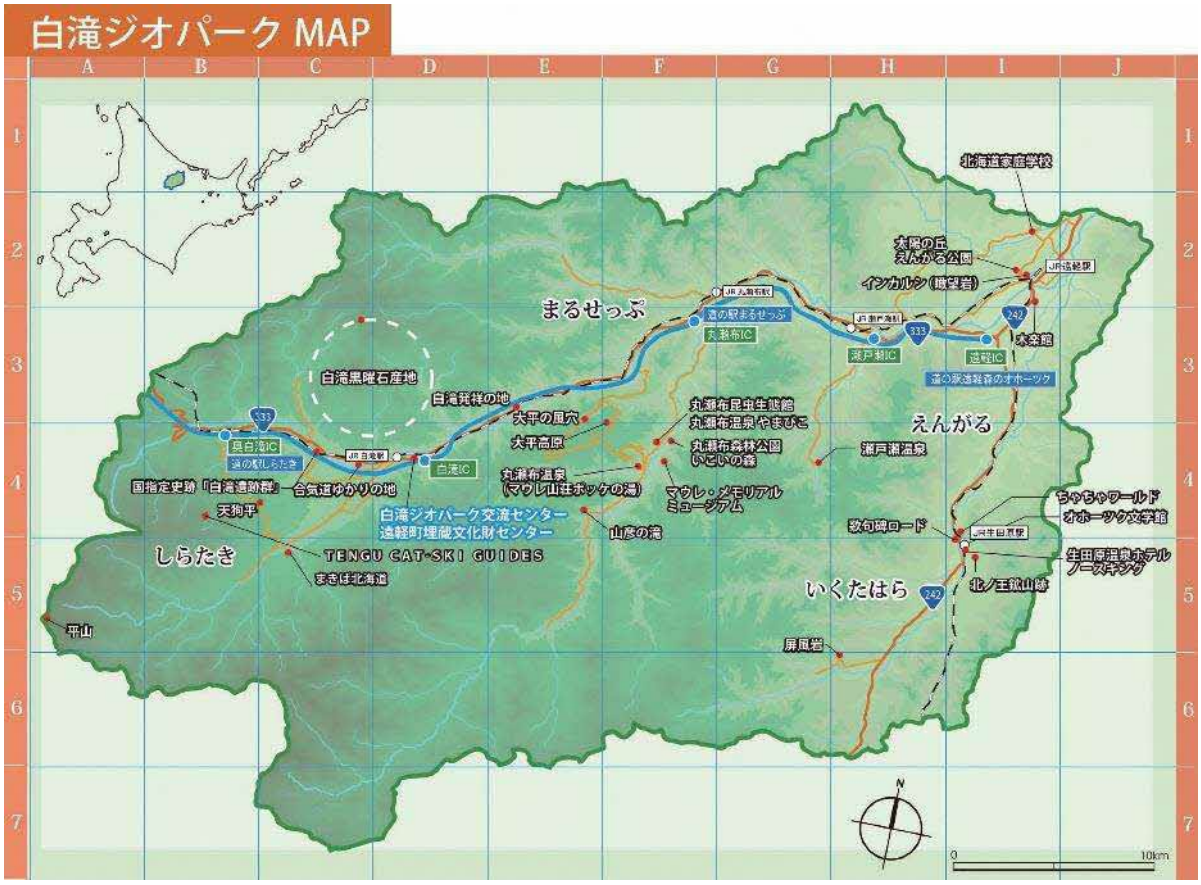
このように、ジオパークを核とした地域づくり、交流人口の拡大に取り組むことにより、札幌圏や道外からの観光客が目に見えて増加しており、町ではこうした地域を盛り上げる好機を活用し、今後は、地域の魅力を伝える担い手の育成にも取り組むこととしています。地域の活性化に取り組むにあたり、黒曜石の魅力を地域や観光客に伝える担い手は欠かせない存在ですが、まだ人材は不足している状況です。

学校の授業などで黒曜石の魅力や、なぜ白滝が重要なのか、地域の子どもたちに伝える"石育"という取組を通して、地域に黒曜石の魅力を広め誇りを持ってもらい、担い手の確保に取り組んでいきます。

▲官民連携により、町内のガイドブックを作成し、道の駅や道内空港等で配布している。

▲黒曜石カレー
黒曜石のような黒いザンギをのせたオリジナルのカレー

▲黒ソフト
町内の人気アイスクリーム店が開発



学芸員に聞く、白滝ジオパークの魅力

国宝に指定された白滝遺跡群出土品や白滝ジオパークの魅力について、白滝ジオパーク交流センター学芸員瀬下係長にお話を伺いました。

Q 白滝ジオパークの魅力は何ですか？

白滝にある赤石山は日本最大級の黒曜石原産地で、それを利用していた昔の人類の暮らしを知ることができることですね。

Q 黒曜石はどのようにしてできたのですか？

黒曜石は、火山岩の一種です。約300万年前の噴火でできたカルデラに、約220万年前に粘り気の大きい溶岩が噴出し、空気に触れて急激に冷えて固まってできました。黒い見た目をしていますがほとんどは透明で、磁鉄鉱という黒色または赤色の成分がわずかに含まれているだけなんです。天然のガラスとも言われていますね。

Q なぜ白滝遺跡群出土品は国宝に指定されたのですか？

旧石器時代の石器の移り変わりや石器づくりの技術を知る手がかりになるからです。白滝は黒曜石産地だったので、旧石器時代に1万年以上もの間、多くの人類が足を運んだものと考えられています。豊富な黒曜石資源を活用した「石器工場」のような役割を持っていました。

旧石器時代では、時期によって作られる石器の形状や種類が変化していきます。それぞれの石器がどのようにして作られたのか、白滝遺跡群の調査・研究によって、さらに具体的に多くのことがわかってきています。

▶黒曜石のかけらをパズルのように集めて合わせると、中に空洞（写真中央の白い模型）ができ、空洞の形から石器の形状を予測できる。

本記事の内容は、北海道総合政策部地域創生局地域政策課で担当しております。
〇事業に関するお問い合わせ先 TEL:011-204-5795